

時の階

平成31年春号
(第7号)

平成31年3月29日発行
三郷市文化財サポーター代表
発行：記録広報部会
事務局：生涯学習課
048-930-7759

講堂記念館リニューアル特別展

三郷の学び舎

彦成小学校講堂記念館は大正15年(1926)に当時の彦成村立尋常高等小学校の講堂として建てられました。大正時代のモダンな雰囲気は今に残す貴重な建物で、平成28年(2016)には市の文化財に指定されています。読者の方にも、実際に、ここが講堂として使用されていたところのことをご存じの方がいらっしやるかもしれません。

平成4年(1992)からは三郷市立郷土資料館として開館し、三郷の文化や歴史を発信してきました。



平成26年(2014)に現在の資料館が開館してからは講堂記念館として、資料館の分館の役割を担ってきました。

一方で、その間、市民の皆様から、貴重な歴史・民俗資料のご寄贈がた

くさんあったことから、新資料の整理・分類も含めた大規模なリニューアルを1年近くの期間をかけて、資料館職員と文化財サポーターが協力して進めました。

そして、その甲斐あって、平成30年3月から4月にかけて、リニューアル記念特別展「三郷の学び舎」が開催されました。



明治の学制以降の三郷市内の教育に関する資料が展示されているほか、江戸時代の寺子屋の様子や、懐かし

い昭和の小学校の様子などが、ジオラマで再現されました。



特別展終了後もこれらは継続展示されています。ぜひこの機会に資料館に足を運んでみてはいかがでしょうか？

彦成小学校講堂記念館

【開館時間】 10～16時

【開館日】 火・木・土・日曜日

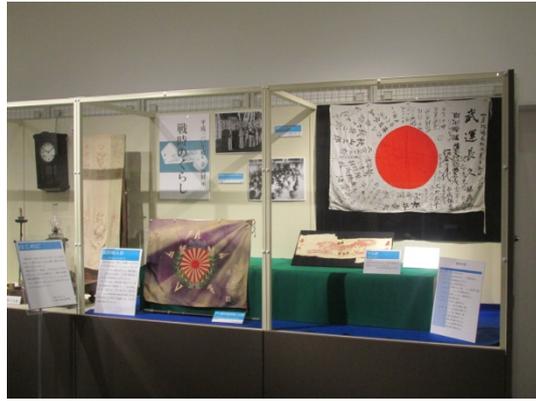
※詳しくは三郷市教育委員会生涯学習課に御問い合わせ下さい。

平成三十年度企画展 戦時のくらし

平成30年度企画展「戦時のくらし」

展が7月31日から9月2日まで郷土資料館で行われました。

太平洋戦争中は多くの人々が大変な経験をしましたが、三郷も例外ではありませんでした。



本展示では戸ヶ崎村国防婦人会旗や出征していった方の千人針や寄せ書きの書かれた日の丸、召集令状など、三郷市と戦争とのかかわりを今

に伝える貴重な資料を展示しました。

また、実際に戦争を体験した文化財サポーターの体験談も、パネルで展示しました。これも、後世に伝えるなければならない貴重な記憶の遺産です。



三郷の被災

サポーター体験談より

東京大空襲のとき、三郷でも谷口で4軒、花和田で2、3軒燃えたそうだ。中川沿いに探照灯（サーチライト）があったのでB29から焼夷弾を落とされて火事になったらしい。

資料館の 歳時記

くられました。

三郷では、ひな祭りは「雛節句」と呼ばれていました。また女の子の生まれた家に人形を贈るなど、この地域独特の風習もありました。

4月から5月には、端午の節句の展示が行われました。

三郷市立郷土資料館では、春夏秋冬、その時その時の時候に合わせて展示替えを行い、三郷市の歴史や民俗文化を紹介しています。

資料館の所蔵する立派な鎧兜のほかに、菖蒲と蓬の葉を束ねて飾るなどの三郷市独特の端午の節句の風習を、パネル展示などで紹介しました。



平成三十年度企画展 埼玉県東部地区 の交通

交通の発展と三郷

平成30年度企画展「埼玉県東部地区の交通 ―交通の発展と三郷―」が平成31年1月11日から2月11日まで三郷市立郷土資料館で行われました。

今回の企画展は、第七回東部地区文化財担当者会巡回展の一環として行われたものです。

三郷市は昭和48年の武蔵野線開通以前は「陸の孤島」と呼ばれておりましたが、その後、三郷インターチェンジや、つくばエクスプレスの開通を経て、今日に至るまで、劇的に交通機関が発展した歴史を歩んでいます。三郷の交通の発展を紹介する史料が数多く展示され、充実した企画展となりました。

今回の展示には、文化財サポーターも展示解説という表舞台でお手伝いをしました。

武蔵野線の開通以前の交通を支えたものとして、河川があります。三郷市は、江戸川と中川に挟まれ、水運が発達していました。

企画展では、まず冒頭に水運に関する資料が展示されていました。

今では想像もつかないことですが、昭和40年代までは、都心で出た屎尿が肥料（下肥）として、水運で郊外の農村に運搬されていました。



また、今では野田や銚子などの醸造業が有名ですが、三郷市内でも水運を利用して醸造業が営まれていました。

今回の展示では、下肥の運搬に使われた桶や、市内の酒造業の看板など、当時の記憶をとどめる史料が多く展示されていました。



来館者の中には、これらの史料が実際に使われていた当時を知る方も多く、私たち文化財サポーターに、

当時の様々なエピソードを語って下さいました。サポーターとしても、充実した、学びの多い時間を過ごすことが出来ました。

また、鉄道の発展を紹介するコーナーでは、つくばエクスプレスに関する展示が多く、そこで展示されたつくばエクスプレスや、計画段階での常磐新線の模型が子どもたちには人気だったようです。



文化財サポーター史跡めぐり

江戸城めぐり

5月27日に文化財サポーターの歴史散策が行われました。

今回は、江戸城とその周辺の散策となりました。

まずは、皇居前広場にある楠正成公の像から。堂々とした騎馬像で、明治時代に住友家によって寄贈されたもので、高村光雲を中心に作成されましたが、甲冑などの考証には大変なご苦労があったようです



その後、桜田門外の変で知られる桜田門、さらに二重橋前を見学後、昼食を挟んで皇居東御苑に伺いました。

ご存知の方も多いと思いますが、江戸時代、本丸・二の丸・三の丸だった部分は現在公園として公開されています。天守閣こそ明暦の大火で焼失して以来、再建されませんが、その代替として用いられた富士見櫓、巨大な天守台など見所がありました。



特に、以前は入れなかった富士見多門櫓に入れたのは驚きでした。これは、平成28年の11月以降、一般に公開されるようになったものです。このように中に入れる建物が出てきたのは、江戸時代を実感できて大変うれしいものでした。

二の丸跡の庭園には、全国の県の木が植樹され、埼玉県の木である、むさしのけやきもありました。



暑い中ではありましたが、参加者一同楽しい一日を過ごせる史跡めぐりとなりました。

編集後記

遅れてしまいましたが、今年度の総括として文化財サポーターの広報誌を作成することができました。

今年度は文化財サポーターも企画展「交通の発展と三郷」で、展示ガイドとして参加しました。展示物には、市民の活動の記録が多かったことが印象に残りました。

ボランティアという形で限られた時間の中で力を出し合って、作り上げているのがサポーターの活動です。それだけに大変な面もありますが、市民参加の大切さを展示物から改めて学んだ思いがしました。

